

# 被ばくに関する説明

## 1. 放射線を用いた検査・手術の必要性

放射線を用いた診療では被ばくを伴います。被ばくの影響よりも利益が大きいと医師が判断した場合に限り、検査や手術が行われます。放射線検査により病気の発見や病状の把握、治療効果の確認など有用な情報を得ることができます。

## 2. 放射線被ばくの影響について

放射線被ばくの量が多くなると（被ばく線量 100 ミリシーベルト以上）、皮膚障害、脱毛、白内障などが現れ、発がんのリスクも上昇します。いっぽう少量の放射線被ばくでは、体の修復機能が働き影響はほとんどありません。放射線検査での被ばく線量は、検査の種類や撮影の部位などにより異なりますが、通常の CT 検査、核医学検査検査で 100 ミリシーベルトを超えることはありません。放射性物質が体内に蓄積されることもありませんので安心して検査をお受けください。

一部の検査・手術では被ばく線量が多くなることもあります。ご自身が受けた検査の放射線被ばく線量について知りたい方は当日の担当スタッフへお尋ねください。

## 3. 被ばく低減の取り組みについて

当院では検査目的や患者さんの体格に合わせて撮影条件を設定し、放射線被ばくを必要最小限としています。特に被ばくの影響が大きい小児では、年齢に応じた専用の撮影条件で検査・手術を行い、より一層の被ばく低減に努めています。